

第 1 1 回「山の日」全国大会実行委員会設立趣意書

日本は、北海道から九州に至るまで背骨のように山脈が連なり、国土の約 7 割を山地と丘陵地が占める世界有数の山岳国家です。これら山々の多くは、森林で覆われ、木材や食材の生産、生物多様性の維持、観光資源、土砂災害防止、二酸化炭素の吸収など、私たちの暮らしを支える上で欠かせない存在です。

1 6 番目の国民の祝日として制定された「山の日」は、こうした山に親しむ機会を得て、その恩恵に感謝する日とされており、この祝日が始まった平成 2 8 年から、この趣旨の浸透を図ることを目的に、「山の日」全国大会が各地で開催されてきました。

こうした中、令和 9 年度の第 1 1 回「山の日」全国大会を香川県高松市で開催することとなりました。

香川県は、日本で最も面積の小さい県ながら、南には讃岐山脈を擁し、讃岐平野には、屋島など山頂が平らな台形型や、讃岐七富士に代表されるおむすび型を特徴とする里山が点在する固有の景観を有しております。

また、本県の山々は、人々の暮らしのすぐそばにあり、北側に位置する瀬戸内の多島美とも一体となった「里山・里海」の密接なつながりの中にあります。

近年、社会情勢の変化やライフスタイルの変化に伴い、森林資源の循環利用、健康増進や環境教育への活用など、私たちの生活において山が果たすべき役割はますます多様化しています。

第 1 1 回「山の日」全国大会では、香川県の山・里・海が織りなす自然の恩恵を再認識するとともに、その魅力を広く発信し、これからの時代における山との関わり方について提言することで、かけがえのない豊かな自然と文化を、次世代に引き継ぐ一歩となる大会を目指します。

この大会の開催に向け、関係機関や団体等、幅広い皆様の力を結集し、ここに第 1 1 回「山の日」全国大会実行委員会を設立します。

令和 8 年 7 月 2 2 日